

ぶらりわが街宮沢界限

(45) 寺社(仏閣・神社)を参拝した証(あかし)ー「御朱印集め」

日本の歴史や文化と関わり深い寺社、まず地元の「阿弥陀寺」・「諏訪神社」などでの年始初詣や七五三など節目以外にも、最近では歴史ブームやパワースポット巡りで身近なものとして足を運ぶ方が増えています。その際の奉拝した証「御朱印」を授与が今、人気を集めています。「御朱印」とは、寺社で御宝印や社名を朱で押した印「押し印」と奉拝の文字・日付(和暦)・御本尊名や社名などがその場で直筆の「墨書(ぼくしょ)」されたものです。記念写真を撮るのとは一味違う「旅の思い出の形」になるものと思います。

○ 御朱印ーもともと寺社で始まり、納経印とも言われるように「写経」をし、それを納めた証として頂くものでした。やがて庶民の間で参拝することが日常的になり、現在では、一般参拝が出来るほとんどの寺社で頂くようになっていきます。* 偶像崇拜を行わない浄土真宗(京都の西本願寺・東本願寺など)では御朱印の授与は出来ません。

○ 御朱印帳ー御朱印を書いてもらう手帳みたいのもの。蛇腹(じやばら)アコーディオンのように折りたたみ式が主流です。大きな寺社はデザインが凝っているのも多くお勧めします。他に文具店や Amazon でも購入できます。値段は 1000 円~2000 円位です。ノートや手帳などは失礼な行為として認識され断られます。

○ 御朱印の授与ー* 重要ー参拝をするという宗教行為が前提にあり、その証として授与するので必ず参拝を済ませた後、場所ー社務所や授与所など。基本 9or10 時~16or17 時(小さな寺社は昼食時(12-13 時)は避けたほうが賢明)。神主・巫女・住職・筆耕者などに「御朱印を頂きたい」とお願いする御朱印帳の授与ページを開き差し出す。価格ーお礼金銭のことを「初穂料(はつほりょう)」と言います。=その年最初に収穫した農産物を納めていた名残です。基本的には 300 円(最近 500 円もある)大きな寺社は問題ないが、釣銭がないよう予め小銭を用意しておく。金額提示が無い場合「いかほどお納めすればよろしいでしょうか?」と聞くと、「お気持ちで」と言われたら 300 円志納。さらに「いりません」と言われた場合には、お気持ちを費銭箱に納める。直筆の方が不在などの場合に予め半紙に「書き置き」を頂き出来る寺社も有ります、後で御朱印帳に糊貼り付けます。寺社によっては、御本尊・御祭神・境内社など複数の授与はページ分お納めします。(京都の東寺はすごく 9 種類)

○ 御朱印帳の保管ー神棚に置く・本棚に置く・専用の入れ物「総桐箱御朱印帳ケース」蓋付で防汚れ、機密性、防湿性などから長期保存可能。7~20 冊で 15 冊箱 3500 円位。

○ 市域の授与寺社ー①「阿弥陀寺」宮沢町 2-36-6 真言宗智山派 ②「福厳寺」中神町 1-3-3 臨濟宗建長寺派 ③「日吉神社」拝島町 1-10-19 拝島鎮守・見開きで都指定無形文化財「榊祭」

○ 多摩のお勧め授与寺社ー1. 自然とともにある寺社: 武蔵御嶽神社(青梅市)・高尾山薬王院(八王子市)・井の頭弁財天(三鷹市) 2. 文化財・仏像を巡る寺社: 塩船観音寺(青梅市)・大國魂神社(府中市)・谷保天満宮(国立市) 3. 史跡・郷土文化に触れる寺社: 深大寺(調布市)・国分寺(国分寺市)・住吉神社(青梅市)・熊川神社(福生市) 4. 街道沿いの寺社: 布多天神社(ふだてんじんじや)(甲州街道、調布市)・阿豆佐味天神社(あずさみてんじんじや)(五日市街道、立川市)。

御朱印は、あくまで授かりもの商品ではありません。それを肝に銘じて、スタンプラリーのようにただ集めて回るのを目的とするのは、マナー違反と心得ましょう。

* 参考文献・資料ー「新、かわいい御朱印めぐり」(山と溪谷社)、「多摩の寺社めぐり」(けやき出版)等

(文・写真) 防犯宮沢支部 西山 禎一



(写真左より)いろいろな御朱印帳、日吉神社(拝島町)の御朱印と榊祭り、阿弥陀寺(宮沢町)の御朱印、福厳寺(中神町)の御朱印